

宮城県 村田町での現地視察

2013年5月28日(火)から29日(水)に宮城県村田町の現地視察へお伺いした時の様子を河北新報社に取材いただきました。

(2013年5月29日(水)朝刊)

蔵生かす街づくりを

東京のNPO 旧商家など視察

村田

一行は町歴史みらい館や造り酒屋「大沼酒造」なども視察した。29日は同町東部の「民話の里ふるさとおとぎ苑(えん)」やスポーツランドSUGOを訪れる予定。

蔵の街並みを生かした地域振興策を考えようと、村田町は28日、官民連携によるまちづくり活動に取り組みNPO関係者を招いた現地視察会を開いた。

東京の若手経営者でつくるNPO法人「元氣な日本をつくる会」の約10人が来町。江戸時代に紅花交易で栄えた町の足跡を伝える「村田商人やましよう記念館」など旧商家の店蔵を見て回った。

記念館の屋根や壁の一部は東日本大震災で壊れたままになっている。向かいで商店を営む大沼悦子さん(74)は「蔵からは町の歴史や村田商人の教えが感じ取れる。蔵を残し、後世に伝えたいといけない」と強調した。

つくる会の須田憲和本部長は「歴史や文化が色濃く残る町という印象。一つ一つをどうつなげて発信するか、官民で連携して考えていきたい」と、村田商人やましよう記念館で蔵の中を見学するNPOのメンバー

今後のまちづくりに協力する意欲を示した。

